

献 辞

2001年度末をもって、石黒先生と原田先生がご退職になられました。両先生が本学を去られたことは、英語英文学科と人文学部のみならず本学にとっての大きな損失であります。

石黒先生は、研究者としてイギリスロマン主義の詩に造詣が深く、また教育者として人間的で信頼のおける態度で学生に接しられ、かつ学生からも愛されたまことに良き教師でありました。かつ長年にわたって図書館長、学生部長、人文学部長等要職を歴任され、本学の発展のために多大な貢献をされました。先生の鋭い洞察力と円満なご人格は、人文学部と本学の発展に資するところまことに大でありました。大学が大きな変化に直面しつつある今、先生の人間性と識見を失うことは、われわれにとって惜しみきれぬものがあります。しかし、おそらく先生ご自身は、すでに十分だとおっしゃることでしょう。これからは悠々自適の生活をお過ごしになり、ロマン主義の詩に親しまれ、末永くご健康であられることを願ってやみません。

原田先生は、チョーサーと中世英語を専攻され、かつ英語英文学全般への造詣にはまことに広く深いものがありました。また先生は、日本英文学会の理事、評議員として長年学会の発展のために尽力されました。先生の学問への信念は、怠惰になりがちなわれわれに学者としての自らをふり返らせるよすがとなるものでした。今日大学の研究と教育は、変化を迫られておりますが、それとともに伝統的な学問的雰囲気は失われつつあるようにも思われます。教育と研究の間にいかにバランスを保つかは、先生が特に意を用いられた点でもあります。このような先生のご退職は、英語英文学科と人文学部の研究と教育のあり方にとって一時期を画するものでした。今後は、ゆったりとした時間の中でますますご研鑽を積まれ、お元気で過ごされますよう心からお祈りいたします。

人文学部長 神 谷 正太郎